

研究課題番号	4-2005
研究課題名	SFTS に代表される人獣共通感染症対策における生態学的アプローチ
研究実施期間	2020 年度～2022 年度
研究機関名	(国研) 森林研究・整備機構森林総合研究所
研究代表者名	岡部 貴美子

1. 委員の指摘及び提言概要

人畜共通感染症に対する総合的な研究で、政策にも貢献する可能性がある。コロナ禍が国際的に大きな社会問題になる前にワンヘルスの重要性を示す課題に取り組んだ点は評価する。本研究で、SFTS 発生境界地域ではシカ密度とマダニ密度に相関があり、里地里山ではアライグマ、ハクビシンなどがウイルス増幅・伝播動物であることを明らかにし、具体的な対策を提言したことは高く評価できる。また、ツシマヤマネコの SFTS ウイルス感染を証明したことも評価する。学術誌に広く公開がなされ、信憑性の高い内容である。今後、野生動物の管理（防除）をすることで、発症リスクがどこまで低下するのか、シカ・イノシシとその他の外来野生哺乳類の防除についての情報を加味したリスク評価など、引き続き研究が重ねられていくことを期待する。

2. 採点結果

評価ランク：A